

職員による自己評価

A業務改善

- ・新人研修計画がシステム化されてきているが、中堅からベテラン向けのテーマ別の専門研修を充実させていく必要がある。

B適切な支援の提供

- ・集団活動の中でも個別化した活動や関わりを大切にされた支援ができています。また、支援の振り返りを効果的に行う工夫をして、次の支援に活かすようにしている。

C関係機関との連携

- ・医療的ケア児を対象とした関係機関とのカンファレンスや ZOOM などを活用した情報共有など、連携方法を工夫している。

D保護者への説明責任等

- ・今年度よりバスの運行状況や園のお知らせにアプリを導入し、利用者の皆様が情報を取得しやすいシステムにした。

E非常時等対応

- ・広域避難所への避難訓練実施など実践的な訓練を行った。ヒヤリハット事例をさらにタイムリーに共有できる工夫が必要である。

保護者による評価

A適切な支援の提供

- ・子どもの評価が適切に実施され、ニーズに応じた支援計画が作成されている。
- ・玩具の設定、活動プログラムがやや固定化している場面がある。

B保護者への説明等

- ・個別支援計画はわかりやすく丁寧に説明されているとの評価が多いが、もう少し具体的な目標にして欲しいという意見もある。
- ・保護者同士で交流する機会・時間がもう少しあると良いという意見が多かった。
- ・バスの利用に関して安全性を高めるための取組を求める意見があった。

C非常時等対応

- ・感染症対策についての基準と対応状況について説明がしっかりされていた。
- ・避難訓練が実施されているが、登園日の関係で避難訓練に参加できないこともある。

D満足度

- ・90%以上の方から支援に満足しているという回答を得た。子どもへの対応、保護者への対応とも丁寧に安心感を持てるという意見が多かった。

通園課内での分析

【共通点】

- ・個別支援計画は子どもの評価・目標が丁寧に説明されている。また、支援方法を職員と保護者で共有しながら発達支援が行われている。
- ・新しい連絡システムを導入し、バスの位置情報や感染対策に係る情報など、タイムリーに保護者と情報共有できている。
- ・緊急事態を想定した訓練は行われているが、登園日に訓練が行われないクラスもあり、マニュアルの読み合わせや変更点の説明など、さらに具体的で実践的な対応が必要である。

【相違点】

- ・一人ひとりの子どもに丁寧な対応ができているという評価の一方で、活動や遊具が固定化していることがあり、バリエーションが欲しいという意見もあった。
- ・保護者支援プログラムについては年間計画のもとで勉強会、懇談会を実施しているが、保護者同士が情報交換できる時間がもう少し欲しいという意見がある。
- ・バスの利用に関して置き去り防止等の取組みについての説明を行ったが、さらに保護者が安心できるよう、ヒューマンエラーを想定して安全性を高めるための装置を取り付ける等の検討を行う。

分析・検討してみても…

通園課の強み

・チームアプローチの充実

クラス担任、主任、看護師、セラピストが情報共有を密に行い、各職種の強みを活かしながら連携した支援を行っている。

・情報を迅速に共有していくシステム

保護者がバスの位置情報をタイムリーにキャッチしたり、センターからのお知らせをアプリで確認したりするシステムを導入し、療育活動の情報にアクセスしやすい環境作りができています。

・職員、保護者の連携作り

子どもの支援方針についての丁寧な説明を通じて、子育てについて相談しやすい関係が構築され、コミュニケーションが活発に行われている。

通園課の改善点

・きめ細かな支援プログラムのさらなる充実

子どもの発達段階に合わせた課題設定や遊具設定の定期的な見直しを行い、個別支援計画の目標と支援方法についても、適宜子どもの実態を評価し、個々に合わせたアプローチ方法を細やかに確認して日々のプログラム作りをすすめる。

・保護者同士のコミュニケーションの活発化

年間の勉強会・懇談会の実施計画について、時期・回数・内容をさらに充実させていくように検討をすすめ、給食後の時間に保護者間で情報交換できるような工夫に取り組む。

・利用者ニーズに対応する通園クラスの設定

利用者ニーズに対応していくためのクラス編成を検討し、年度毎に柔軟に対応できるように受け入れ体制を整備していく。

・利用者の安全対策に関する取組の充実

避難訓練に参加できていない通園児とその保護者が安心して通えるよう訓練の実施方法や非常時の取組の情報共有について工夫する。また、バスの置き去り防止等、バスの安全性向上のための改修等について検討をすすめる。

～自己評価を行っての通園課としての感想など～

お忙しい中、利用者の皆様から様々なご意見・ご感想をいただきましたことに、改めて感謝申し上げます。

今回の評価を励みにして療育活動のさらなる充実に取り組みたいと思います。

今後も利用者の皆様一人ひとりを大切に、地域の関係機関との連携も充実させ、利用者の皆様が家庭・地域で安心して生活していけるように療育活動を展開していきます。

事業所名 川崎西部地域療育センター

担当者 通園課園長 長門展弘